

第17回 3D教育研究会

開催レポート ～ダイジェスト～



2013年6月22日(土)、東京都文京区本郷にある東洋学園大学の会議室にて、第17回3D教育研究会が開催された。13校の学校および学校関係者が多数参加。

第1部は株式会社マイナビの武村勇二氏にご講演を頂きました。その後は、意見交換会としてアンケート集計報告や各学校の3D教育プログラムの活用状況の発表の場が持たれ、参加校の各先生方による発言や意見も飛び交い、充実した時間となりました。

平成25年7月吉日
株式会社KA教育
代表取締役 菊地 淳

第1部「講演会」

会長挨拶



司会：3D教育研究会 副会長 樋口 元先生（京華中学校・高等学校 企画広報部長）
本日は『第17回 3D教育研究会』にお集りいただきありがとうございます。
はじめに3D教育研究会会長の片倉敦先生に挨拶をお願いしたいと思います。

3D教育研究会 会長挨拶 片倉 敦先生（順天中学校・高等学校 副校長）

この研究会は今回で17回目になります。今回は「進学先選びから始まるその後のキャリア」という題であります。

先日、面白い話を聞いたのですが、現在韓国では4年制大学への進学率が8割を超えているそうです（日本では50%）。センター入試の日には飛行機も飛ばさないようで、少しでも遅れそうな子がいる場合にはパトカーがその子を送っていくというような、受験に対して非常に組み込まれた国だと聞きました。しかし実は就職率が非常に低いということで、現在韓国の就職率は6割くらいです。ソウル大を卒業してもなかなか就職が厳しく、若者たちは自分を責めて自殺者も増えるといった状況にあるということを経験された先生より聞かされました。それで思ったことは、韓国の社会では大学進学をひとつの目標にした中学高校教育を行っているのだなと。私の学校でもそうですが、大学の進学状況だけに一喜一憂するようでは、子供たちの本当の幸せにはならないのではないかと私は常々思っております。

今回このような企画をした一つの理由としましては、私たち中学、高校の教師がやはり生徒1人ひとりが社会人になった時にいかに役立つ力をつけていくかということをしかりと理解しなければならないということです。日本は韓国の10年遅れでもしかすると同じような状況になるかも知れません。韓国国内のサムスンやヒュンダイへの就職は半数程で世界各国から人材を集めているそうです。日本もこの先そうなった場合、立ち向かうにはどうすれば良いか。そういう力をつけさせてあげることが我々の使命ではないかと思えます。今日の講演で学校に持ち帰っていただき活用していただければと思います。



講演『進学先選びから始まるその後のキャリア』

講演：武村 勇二氏（株式会社マイナビ）

司会：3D教育研究会 副会長 樋口 元先生（京華中学校・高等学校 企画広報部長）

本日はマイナビの武村勇二先生にご講演いただきます。

先日も別の場所でマイナビさんの講演を聞かせていただいたのですが、入口の偏差値や出口の大学進学実績だけで中学高校を選ぶということは時代遅れなのかなと私個人的には感じました。本日もその辺りのお話も聞くことが出来るかと思っておりますので、非常に楽しみにしております。



ご紹介頂きました株式会社マイナビの武村と申します。

私はキャリアサポート部というところで高校生のキャリアや進路をどのようにサポートさせていただくかということをお仕事させていただいています。普段は主に生徒さんの前での講演業務を行いながら、社内では情報誌を中心とした編集業務を行っております。



ご自身で作成されたレジュメをもとに約1時間30分の講演が行われました。



現在、大学生は就職をする際に非常に苦しんでおります。社会に出てからも苦しんでいる若者がたくさんいます。恐らく“会社で働く”ということを中学生や高校生では全くイメージ出来ないのだと思います。イメージが出来ないまま世の中に放たれると非常に苦しんでいるのではないかと我々は思っております。今日は大学生の就職事情からスタートさせて頂いて、我々が普段高校生に伝えていることをベースに何を伝えていくべきかというお話が出来ればと思います。

私どもの理念としましては、高校生の進学のその先で何が起きているのか？というところを高校生に伝え、成長をサポートしていくということをテーマとしております。

本日の内容ですが、大きく次の3つお伝えできればと思っております。

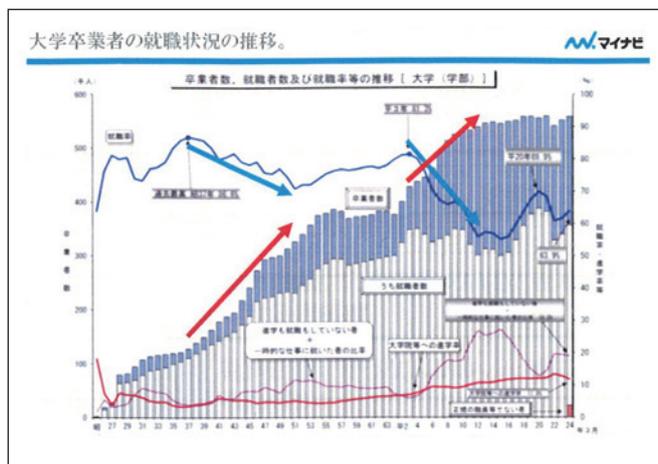
●就職難について

●求められている人材像とは

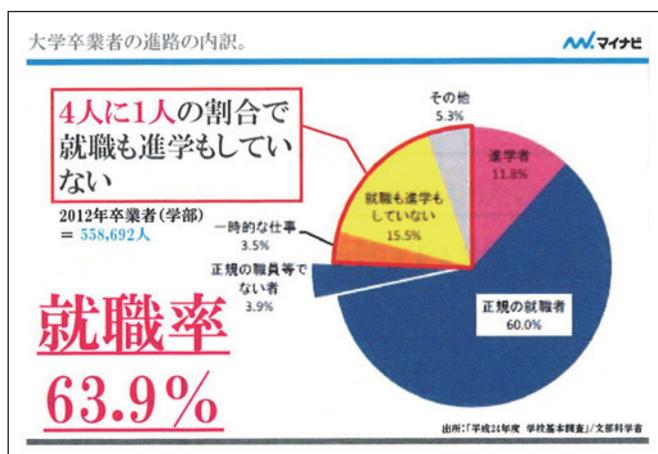
●これからの社会について

『なぜ大学生は就職できないのか』

卒業後に就職されている方が63.9%、それ以外の方が36.1%となります。ベースとしてはこれを基に就職難というふうに言われております。世間的には不景気のため就職難とされていますが、ここ3、4年の求人倍率は安定しています。低い水準での安定なのですが、基本的に1倍を下回ってはいません。ですから就職したいという学生より採用したいといった企業の方が多いこととなります。にもかかわらず学生3人に1人が就職できないという事情が起こっています。これは簡単に言うと大学生の数が増えたことによるものです。



平成24年の卒業者の進路の内訳は次のようになります。正規で就職した方が約60%、進学された方が約12%、4人に1人くらいの割合でフリーターとして卒業あるいは進路未決定のまま卒業していく状況です。企業側が採用するのが難しいと言う1番の理由は、学生の質の低下ということです。2番目が母集団の確保が出来ないということ。



最近企業の方から良く聞くのですが、大学名だけでは分からなくなってきたということです。例えばMARCHクラスのようなたくさん学生のいる有名大学だとピンキリなので、実は高校名にも着目されているそうです。高校名は学カレベルも含めて比較的一定レベルというように企業側は捉えているようです。

『企業は学生のどこを見ているのか』

主に4つあると言われております。スキル、能力、興味、価値観を見ているようです。企業側は学力より能力に着目し、特に社会人基礎力というもの重要となってきます。適性検査のようなものでも、主体性やコミュニケーション能力の高い数値が出たような人から優先的に面接を行っていくような流れになっています。

企業が、採用するか否かを判断するポイント。

スキル	資格、語学力、 学力成績 、大会順位、筆記試験
能力	社会人基礎力 。中でも、主体性、発信力、実行力、傾聴力
興味	志望動機、 入社意欲の高さ 、仕事に対する理解度
価値観	社内と 合いそう な人柄か、一緒に働ける人材か

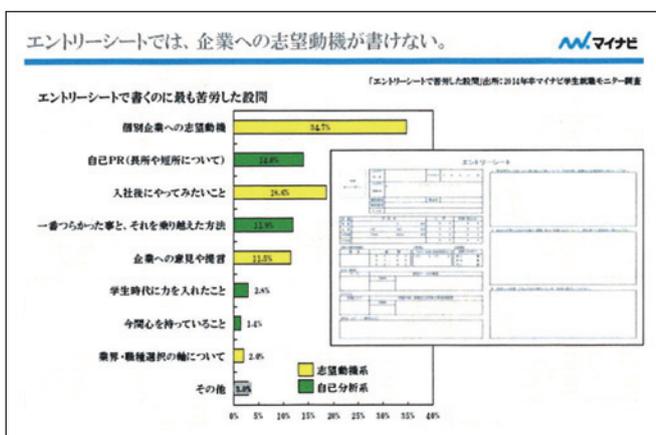
どの企業においても以下の3つは必ず面接で問われます。

就職の面接で、必ず問われること。

志望動機
なぜ、数多の企業の中から当社に入りたいのか？

学生時代の取り組み
何に、どう取り組み、どんな成果を得たのか？

自己PR
入社後、どのように活躍・貢献できる強みがあるのか？



現在企業側が困っている共通のことは『志望動機』が非常に弱いということ。自身の志望動機が書けない、語れないという学生さんが非常に多いということが問題になっています。

また、面接の前に大手の企業になりますと、エントリーシートというものを学生に提出してもらうことになるのですが、何が難しいですかとの問いに、やはり学生側も志望動機という解答が出ています。

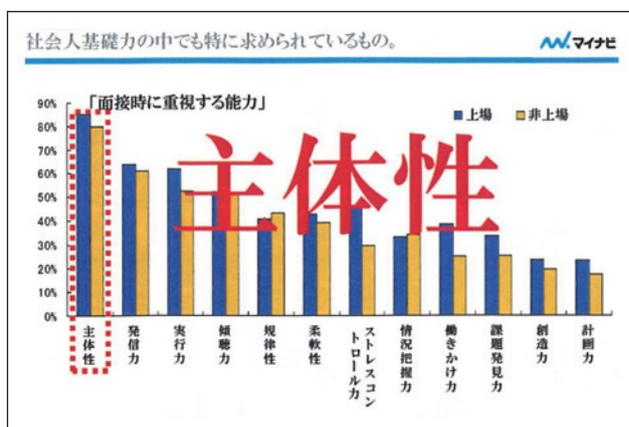
就職活動が始まったから会社を探すのではなく、可能であれば若いうちから世の中がどうなっているのかということをしつづつ知ることが大事だと思います。これがないと恐らくいつまでたっても志望動機が語れないということになってしまいます。

多くの企業とマイナビが接している中で、共通して求められている人物像というのは主にこの5つだと考えています。また、社会人基礎力として一番求められるのは『主体性』だと考えます。

多くの企業に共通する、求める人物像。

- 学生時代に何かに**打ち込んだ経験**がある。
- **主体的**に目標を立て、計画的に取り組んだ。
- 最後まで**粘り強く**取り組んだ。
- 自らの**役割を認識**し、相応しい行動がとれる。
- **あらゆる相手**と良好な関係を構築できる。

熱意 主体性 粘り強さ チームワーク コミュニケーション



『就職の現場で自分で決断出来ない生徒が多い』

私の知る限り、そもそも「なぜ勉強しなければならないの?」という生徒さんが多くいらっしゃいます。それをそのまましておくで就職活動が始まった時に「なぜ働かなければならないの?」ということになってしまいます。これは中高生の頃から気をつけなければならない点です。

また、行くべき大学や学部がわからないといった生徒さんに対し、相談によってあげるのは良いことですが最終的に決めるのは生徒自身であるべきなので、これに対して大人が介入し過ぎると子供たちは自分で決断出来なくなってしまう。結果、大学進学は出来ても就職の際に苦しんでしまいます。

～企業が求めている人材＝自分で考えて行動出来る人材～

どんなに就職難であってもこれ出来る学生は必ず内定を貰います。自己PRができて志望動機がしっかりしている学生は絶対に就職出来ます。

『行動意識や高校生活と、就職活動との関係性』

以下、このようなデータが出ています。

①早く動き出す学生は内々定率が高い。

主体性と関わりますが、自ら動く学生さんは当然高いです。周りが動くまで待っている学生さんは遅くなります。

②体育会の部活生は内々定率が高い。

スポーツ系の部活をやっていた生徒は70%で何もしていなかった生徒は50%と20%の開きがあります。やはり粘り強さがあるのではないかと見られます。

③一般受験の入学者は内々定率が高い。

AO推薦よりも一般入試で大学に入った学生さんの方が高いです。ほとんどの高校生は勉強を好きではありません。でも、好きでなくとも勉強と向き合って逃げずに頑張って一般入試で競走してきた学生さんの方が結果的には企業が好む人材だったということです。

普段生徒さんから良く言葉として以下のようなものがあります。「就職率が良いから理系に進めと言われました」「自宅から通える範囲の大学に行きたいです」「無理せず合格出来る大学に行きたいです」「AO推薦で早めに決めたいです」これってどうなのでしょう?それはそれで良いことなのでしょうが、少なくとも企業の視点では好まれません。思考が完全に無難な思考になっていると思います。企業が求めているのは、自分で考え行動ができる所謂アグレッシブにチャレンジ出来る学生像です。それとは全く正反対なのです。



『現状として』

・今春の入試で4万人近いと言われた大学入学後の**再受験者**(この9年で60倍)

・年間10万人以上^{*}の**中退者**(私大で8人に1人)
*大学・短大・専門学校の中退者。

・毎年10万人以上の**進路未定者**(大卒で5人に1人)

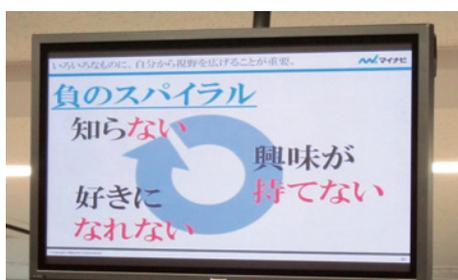
・就職後の**早期離職^{*}者**(大卒で3~4人に1人)
*3年以内の離職者。

進んだ大学がやっぱり違った、この仕事は自分に向いていない、人間関係が良くない...等で辞めていく人、またそもそも自分の進路を見つけれない生徒が多く存在します。

諸外国と比較して、そもそも何の為に勉強しているのだろうか?という傾向に日本はなっています。マイナビがやりたいテーマとして『生徒たちをどう成長させていくか?』というのがあります。企業が厳選採用で、一定のレベル以外の学生は採用しないという姿勢になってきている中で、生徒さんたちがそのレベルをクリアしてくれれば企業側は確実に採用します。なぜならば企業は優秀な人材を必ず欲しいのです。従って簡単に言うと『みんな頑張って成長しようよ』ということです。これが出来ないかということが常に大きなテーマとしてあります。

『なぜ勉強しなくてはならないのか?』という質問を良く受けます。世の中には問題、課題たくさんあります。これと向き合うのが仕事です。その解決の為に学問や勉強はとても役に立つのです。逆にこれを持っていない人たちは恐らく解決出来ません。大学に入る為に勉強をしている訳では無いというのが根底にあります。

『社会のことを知らない高校生が多い』



そもそもお先真っ暗だと思っている高校生が非常に多いです。就職難ということを知っているからだと思いますが、そんなことは無いというようにしっかり教えてあげなければやる気も上がりません。知らないだけに好きになれない。好きなことにしか自分の進路や興味も湧かないと思うのですが、そもそも知らない世界の進路は選べないということです。視野を広げることによって自身の力や可能性に結びつくということです。何より、無駄な勉強はありません。

— 高校生のなりたい仕事とは (2011年東京都調査) —

- 1位…保育士
- 2位…歌手・タレント
- 3位…学校の先生
- 4位…会社員

保育士=自分が昔お世話になった人
 歌手・タレント=普段自分がテレビで見ている人
 学校の先生=普段学校で見ている人

やはり単純に自分が知っている職業だからです。まだまだ職業というものを知らない生徒さんが多いというのが現状です。

『未来とどう向き合っていくか』



例えば、以前は偏差値の高い学校を出た人は、証券会社などでバリバリ働くといったイメージがありましたが、証券会社自体がこの20年間でかなり激減しているものです。それくらい10年～20年といった単位で社会や物事が移り変わります。現在の中高生が社会に出るのは10年後、あるいは社会に出て活躍出来るようになるのは20年後です。日頃思うのは、現在の進路指導の現場というのは『今ある職業』で考えられていると思うのです。この辺りに大きな危険性やリスクを感じることがあります。世の中はどんどん変わっていきます。例えばIT化とグローバル化で日本の仕事はどんどん無くなっていくと言われて

います。現時点でやりたい仕事が将来無くなるかも知れません。これからはやりたいことだけではなくすべきこと。これから世の中で自分は何をすべきなのか。世の中はどう変わっていくのか。この辺りを軸にしないと変化が速いので対応出来なくなってしまうのではないかとされています。これから下火になっていく職業とは何なのかというと製造業と建設業といった“理系”です。今、就職率が良いから“とりあえず理系”というのはもの凄く危険な考えなのかも知れません。ただ、医療系に関してはこれからも成長が見込める分野と言われております。

やりたいことを考えるのは難しいことだと思います。すべきことを考えるのも難しいと思います。であれば、やはり社会に認められるくらい自分が成長をして胸を張れるような人になるということです。ただ成長すれば良いわけでは無いと思いますが、これからグローバル化、IT化の世の中になっていく上で、どの分野の仕事が減っていくかという、中間層だと言われております。外国人でも出来そうな仕事であれば、その方が低賃金で済みますので、日本人に任せなくても良いと考えられています。例えば工場の中でラインを管理しているような仕事は減っていくと言われております。もっと個性的で自分にしか出来ないような事ができる人たちが生き残れるとも言われています。もしかすると税理士や会計士といった仕事は未来的にはそれほど良くないかも知れません。会計ソフトというのが今後より進化していくにつれて、会計士が必要なくなるという時代になっていくのではないかと予測できます。ですので、今もっともアップパーである職業でも未来的には危険な可能性すらあります。予測ですが、色々な事が変化すると思っています。未来に向けて社会は変わっていったという事実も今の高校生に伝えていかなければならないと考えています。



日々変化している状況ですので、先の事を考えても恐らく難しいと思われれます。とにかく今、目の前にあること、自分がすべきことを考えて自分で決めていくといった経験を積む必要があると思います。このような事が出来る学生は社会が変化しても、その場その場で自分で考えて行動が出来ます。ただ、これが出来ない学生は変化の中で取り残されていきます。やはり勉強は大切であり、基礎を知った上でそこから応用的に自分で考えていくということが大事だと思います。生徒にはただ単純に大学に行きたいからということではなく、もっと先の目的意識と成長意欲を持った進路選択をしてくべきだと思います。

大人が正論をぶつけられるのは高校生までです。大学へ行ってしまうと教授は余計なことはいません。ですので、目先のことでなく、是非正論を語っていただきたいと思います。“何を学ぶのか”ということに気を配る学生が多いですが、そもそも勉強というのは“どう学ぶか”ということが大切なのではないでしょうか。あと、努力を嫌う学生も多いです。努力によって必ず成功出来るとは言えませんが、必ず成長は出来ます。成長をした分成功には近づくものです。普段学校でなぜこれをやるのか？やらなくてはならないのか？という生徒の疑問を少しずつ世の中や社会と結びつけてあげることが、より生徒の為になるのではないかと考えております。

講演後の質疑応答の様子



Q 先生のお話の中で、「企業が人材を求める際に MARCH レベルといってもピンからキリまでですので、企業は更にそれ以前の出身校でも見極める」ということを話されていましたが、これはどういう観点で見ているのでしょうか？

鴫田 克彦先生（駒場学園高等学校）



A 基本的に企業は『学力の高い生徒＝頑張れる』と評価します。ある程度マンモスの私大になってきますと様々な学生が混在しています。従って大学だけでイメージすることは間違いだと企業は気付いていきます。ただし、やはり頑張れる人材が欲しい為、どこで判断するのかということです。一例として高校は大学と違いイメージし易いということもあると思います。学力の層が見え易いということだと思います。



Q 今の若い方々は「空気を読む」や「相手の顔色を伺う」というように非常に気をつかうのですが、その部分と本来持っている「調和」や「協調性」というのを企業の方々はどのような視点で見抜かれるのでしょうか？

内田 美樹先生（NPO 法人 日本スクールコーチ協会）



A 人事によって多少異なるとは思いますが、最初のグループディスカッションを通して見極めることが多いです。自らどれくらい発言しているかという部分は確実に注目されます。ですが、必ずしもリーダーシップを求めている訳ではないです。この辺りは企業の人事の目線と学生の目線でズレがあると思います。学生はリーダーシップを取らないと評価が下がってしまうのではないだろうか？などと思いがちですが、企業はそのことはあまり気にしておらず、どういう役割を担っていけるかという部分に注目しています。色々な役割の中でちゃんと参加出来ているか？という部分を見ています。

質問～まとめ



武村先生にお伺いしたいのですが、今日高校生について色々な社会の実態を伝えて、といったお話を伺って私も進路指導を担当していた経験がありますので似たようなことを生徒に伝えたことがあります。ただ「今社会はこうだよ」といった話をしますと段々生徒の元気がなくなっていくことがありました。「そんなに厳しい社会なら俺もう駄目だ」というように下を向いちゃうんですね。なのでいくつかのヒントだけでもお伺い出来れば良いのですが、生徒が下を向かないような、逆に上を向いてくれるような話のポイントですとか話題というのをいくつか教えていただければと思います。

高野 淳一先生（東京学園高等学校）



ありがとうございます。私も実は同じような悩みは持っておりまして、就職難というのを高校生、恐らく中学生が知っている中でこれをキーワードに出してしまうとやはり前を向いてくれないというのは実感しております。なので就職難は私は生徒さんにお話しするときは基本的に「何が起きているのか」という話はあまりしないんですね。「知ってるのすごいね。」「よく知ってるね」から始めますね。「でもそれって実はこういうことなんだよ」という話よりも自分がじゃあ就職出来るか不安？っていうのを聞いて、3D教育の受け売りになってしまうのですが「大丈夫だよ」という発言をなるべく生徒さんにしてあげるだとか、意識することが特に最近多いですね。

私自身はちゃんとやることをやれば絶対に就職難は突破出来ると思います。本当に生徒さん全員の意識が変わることが出来れば300人居ようが500人居ようが就職ができる。その為にやらなければいけないことを明確にしてあげると生徒さんは前を向いてやる気になってくれる。そういう学生さんは沢山居らっしゃいます。それでも駄目な学生さん、それが響かない学生さんにどのようなことをしていけばいいか、それが私の課題だと思っております。とにかく生徒さんの力をまずは信じてあげる。先生方は当然信じていらっしゃると思うのですが、私みたいな初対面の大人が信じてあげるというようなこともそれは生徒にとって凄く心強いと思います。

武村 勇二氏（株式会社マイナビ）

参加者全員での記念撮影



懇親会



出来る・大丈夫・大成功

3D教育研究会

2013. 6.22 第17回 3D教育研究会 in 東洋学園大学

.....

株式会社KA教育

〒173-0012

東京都板橋区大和町12-12

03 - 6784 - 7675